

	現状・課題	重点的な取り組み	取り組みに向けての具体的な意見
魅力あふれる地域づくりの推進	<p>地域の住民の交流を広げたり、ふれあいを深めるための場や機会が不足している</p> <p>行政に頼るのではなく、自分たちの地域は自分たちで守り育てるという意識や行動が不足している</p> <p>地域でさまざまな活動を行っている市民団体やグループの横のつながりが十分ではない</p> <p>地域活動を活発化するには、活動をサポート、コーディネートする人材が必要である</p>	<p>地域住民の活動・交流の拠点となる居場所（たまり場）づくり</p> <p>地域活動や市民活動をコーディネートする人材の確保・養成</p> <p>地域活動や市民活動を支援する専門家や行政機関のネットワークの強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 空家などを活用した地域活動の拠点づくりを進める（黒田委員） 「バリアフリー公園とふれあいの拠点づくり」は年齢や障がいに関係なく、共生の地域づくりを導く。その仕組みづくりを、現在取り組まれている事例を活かして市民と行政との協働で進める必要がある（柴川委員） 市民活動を支援するコーディネーターの育成や、ITを活用して専門家、行政機関などを結ぶネットワークづくりを行う（杉岡会長） 既存の公共施設をNPOや市民団体などの活動スペース、交流スペース、広報スペースとして有効に活用（伊藤副会長）（燕委員） 様々な活動を実践しているNPOや市民団体と、町内会などの地域団体との連携・協力体制づくりを進める（黒田委員） 先進的な取組を市民が中心となって評価するとともに、活動を検証し、広めるしくみが必要（伊藤副会長） 市民自身が自らの活動などの情報を発信すべき（黒田委員）
少子化対策の推進	<p>孤立している母親や子どもたちを地域で支えていく工夫や仕組みづくりが必要である</p> <p>保護者の様々なニーズに即した放課後児童対策の実施が必要である</p> <p>働く親にとって、子どもが病気のときのサポートが十分ではない</p>	<p>子育て家庭と子育て情報を身近なところで結ぶ仕組みづくり</p> <p>地域における保育機能の質の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 孤立しがちな子育て家庭が、札幌市にある社会資源に確実に繋がっていく工夫が必要（多様な主体による子育て支援の拠点づくり）（岩田委員） 医療機関との連携・協力により、「こどもデイサービスセンター」をより使いやすくする工夫が必要（伊藤副会長） 市が設置する児童クラブの保育の質の充実（岩田委員） 民間の学童保育所の先進的な取組を生かすため、官民格差を是正するための補助制度の充実や公設民営化などを検討すべき（燕委員） 障がい児の学童保育の充実（燕委員）
地域での高齢者・障がい者の自立支援の促進	<p>障がい者が札幌市内で地域生活できるような環境づくりが必要である</p> <p>障がい者への情報提供や相談がきめ細かに行われておらず、ニーズが十分把握されていない</p> <p>高齢者が増加していく状況のもと、地域で暮らしつつけていくための住宅やケアサービスなどが十分ではない</p>	<p>障がい者等が地域で住民とふれあい、様々な活動に参加できる場づくり</p> <p>障がい者等への情報提供・相談支援機能の強化</p> <p>高齢者・障がい者の多様な生活ニーズやケアニーズに応じた良質な住宅づくり</p> <p>高齢者、障がい者、乳幼児などを対象とした、総合的な地域ケアの仕組みの検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民による障がいのある子どもを支援する先駆的实践を広げていくことが必要（伊藤副会長） 視覚障がい者や知的障がい者をはじめ、障がい者への情報伝達や相談のための媒体、手段を工夫すべき（燕委員） NPOによる知的障がい者グループホームの設置運営を支援することが必要（燕委員） グループホームに入居している知的障がい者が、必要な在宅福祉サービスを十分に利用できるようにすべき（燕委員） 重度の知的障がい者も受け入れ可能な手厚いケアのグループホームの設置を促進すべき（伊藤副会長） 高齢者共同住宅のあり方や質を維持するための第三者評価などの仕組みや独自の支援策を検討すべき（伊藤副会長） 障がい者・高齢者・乳幼児などが同じデイケア施設でサービスを受けられるようにすると良い（燕委員） 「札幌市障害者保健福祉計画」のよりきめ細かな実施計画を障がい者自らがつくる取組（伊藤副会長）

	現状・課題	重点的な取り組み	取り組みに向けての具体的な意見
地域での健康づくりの推進	<p>元気な人たちの健康維持だけでなく、慢性疾患や成人病などを抱える人たちの健康回復をサポートすることも課題である</p> <p>食生活の乱れ、高い喫煙率、性感染症の増加、人工妊娠中絶率の上昇など若年層の健康問題は深刻化している</p>	<p>地域住民の健康づくりを支える情報提供・相談の充実</p> <p>子どもたちの、健康や性の問題に対する意識を高める取組の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の健康づくりを促進するための情報提供、相談機能、活動の場、人材などの充実（杉岡会長） ・ 専門家と学校の協力による、小学生の段階からの健康教育や性教育などのプログラムの充実（杉岡会長） ・ 人工妊娠中絶率の改善に向けた計画を、高校生など若年層からの提言を受けて策定してはどうか（伊藤副会長）
その他	<p>国民健康保険料が未払いのために医療を受けられないということが全国的に問題になっている</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較的所得の少ない単身者の保険料率が高くなっている現在の国民健康保険賦課方式について見直しが必要（伊藤副会長）